

金谷地域

1 地域の将来像

『産業と観光が一体となりにぎわいと交流を創出し健やかに暮らせるまち』

2 地域づくりの目標

(1) 金谷公民館を中心に、地域がまとまり安心して暮らせるまち

金谷公民館周辺の地域拠点においては、医療・福祉・商業・子育て支援施設などの都市機能の誘導を図り、安心して暮らせるまとまりのあるまちづくりを目指します。

(2) 空き地などを活用した交流空間の創出

地域内に点在する空き家や空き地などをリノベーションし、地域の交流空間として利活用することで、多世代がつながり交流するまちづくりを目指します。また、耕作放棄された茶畑や農地などを農業体験の場などに利活用することで、豊かな自然を活かした交流機会の創出を図ります。

(3) 大井川などの自然を活かした企業誘致の促進

大井川の豊かな水資源を活かした企業誘致を促進することで、新たな雇用の創出を図り、活力のあるまちづくりを目指します。

(4) 歴史と文化が人をつなぐまち

諏訪原城跡や茶の都ミュージアム、旧東海道石畳などの地域に点在する豊富な観光資源が持つポテンシャルを強化するとともに、それぞれの観光資源と地域拠点をつなぐネットワークの形成を図ることで、歴史と文化が人をつなぐまちづくりを目指します。

(5) 充実した公共交通のあるまち

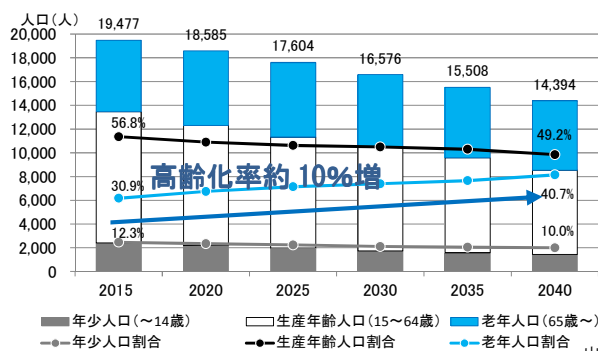
東海道本線・大井川鐵道大井川本線・コミュニティバスなどの公共交通の利用促進を図ることで、公共交通が充実したまちづくりを目指します。また、新たに整備される賑わい拠点や KADODE OOIGAWA などと地域拠点間が、円滑に移動できる交通ネットワークの形成を図ります。

3 金谷地域の概況

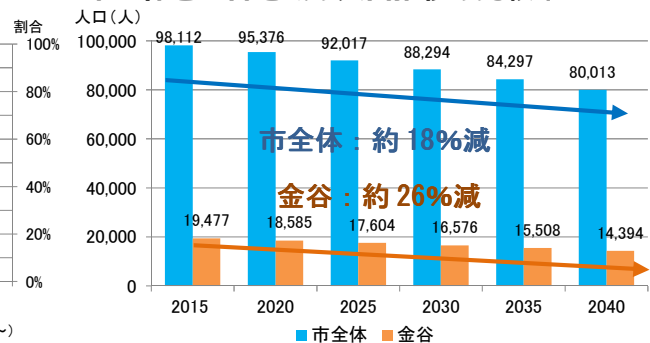
(1) 位置、人口

- ・金谷地域は、本市の西部に位置し、西側は掛川市・菊川市に接し、東側は大井川に面しています。
- ・本地域の南部は都市計画区域に指定されており、このうち JR 東海道本線と国道 1 号に挟まれたエリアや新東名高速道路島田金谷インターチェンジ周辺の大井川沿いは用途地域に指定されています。
- ・今後の人口推移については、2015 年から 2040 年までの 25 年間で約 26%減少することが予測されています。一方、高齢化率については、25 年間で 10%増加し、2040 年には約 41%になることが予測されています。
- ・人口密度については、今後特に金谷駅や新金谷駅周辺などにおいて低下することが予測されています。

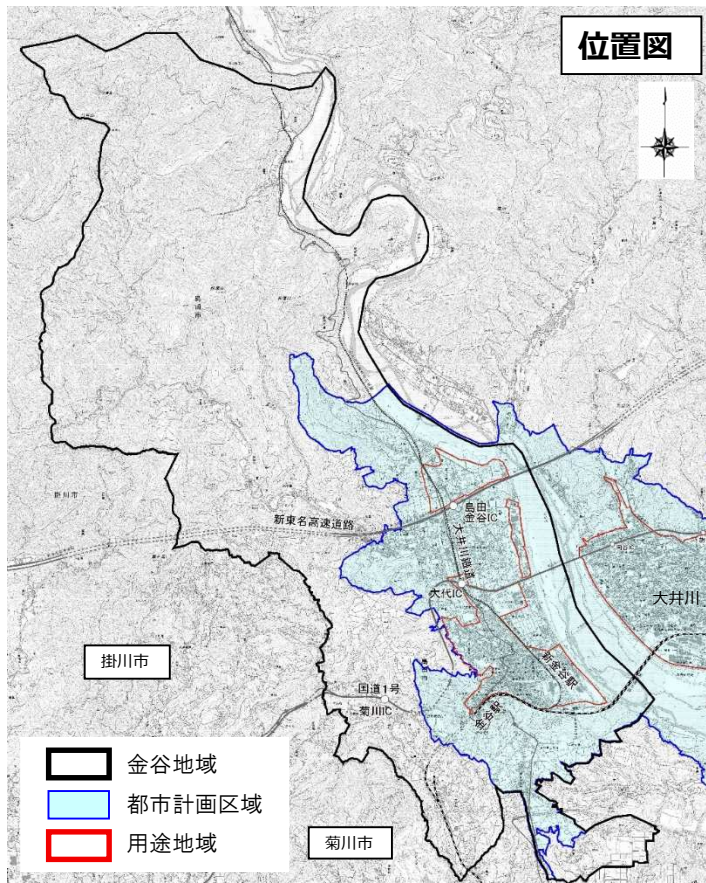
金谷地域の人口推移予測 (2015→2040)



市全体と金谷地域の人口推移の比較 (2015→2040)



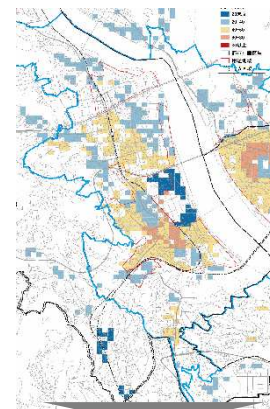
出典：金谷地域・島田市人口ビジョン、市全体・国立社会保障・人口問題研究所の推計



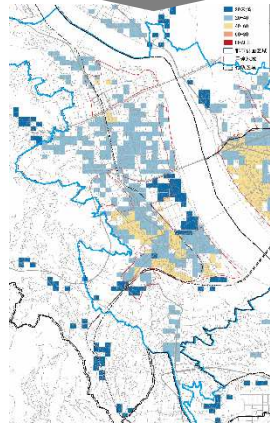
国土地理院 1/25,000 地形図を加工

人口密度の推移予測

2015 年



2040 年



100m × 100m 内の人口

- ・新東名高速道路島田金谷 IC が広域交通の拠点となっています。都市計画道路は、島田金谷北部幹線（国道 1 号）、金谷五和線（国道 473 号）、金谷駅島田線などの幹線道路が骨格を形成しています。
- ・JR 東海道本線金谷駅、大井川鐵道新金谷駅などが公共交通の交通結節点となっています。
- ・都市計画公園は、街区公園、近隣公園の整備が完了しています。
- ・金谷公民館、金谷北支所及び金谷南支所周辺に、学校、幼稚園・保育園、医療施設、高齢者福祉施設、商業施設などが分布しています。
- ・大井川鐵道の SL、旧東海道石畳、諏訪原城跡などの観光・歴史資源が分布しています。

この図は、神奈川県内の Sagami River 沿いの地域を示しています。地図には、 Sagami River、 Sagami River Water Park、 Sagami River Water Park 周辺の公園、 Sagami River Water Park 周辺の道路、 Sagami River Water Park 周辺の施設などが示されています。

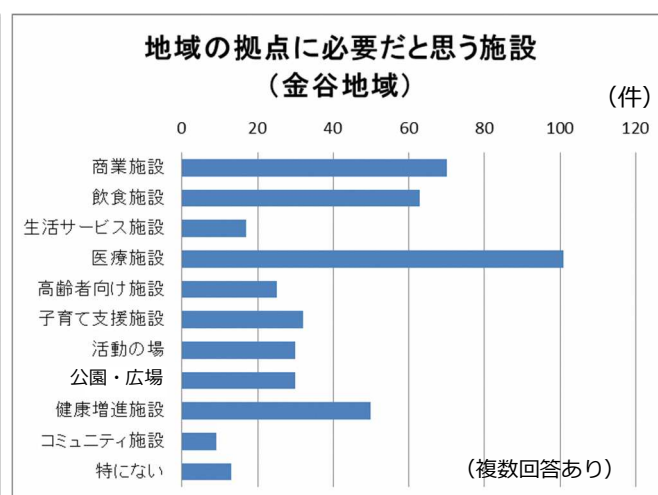
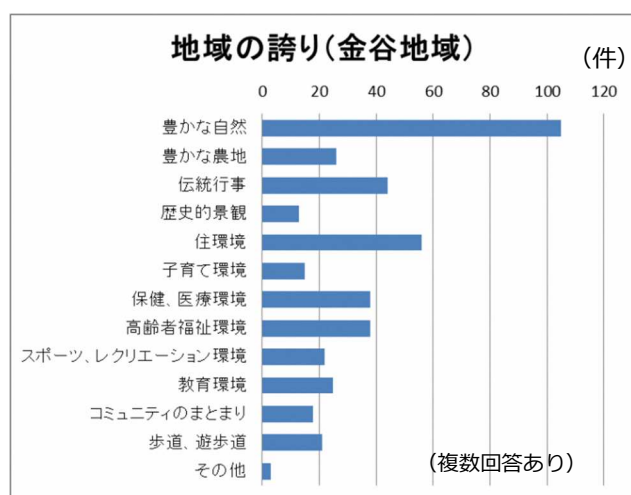
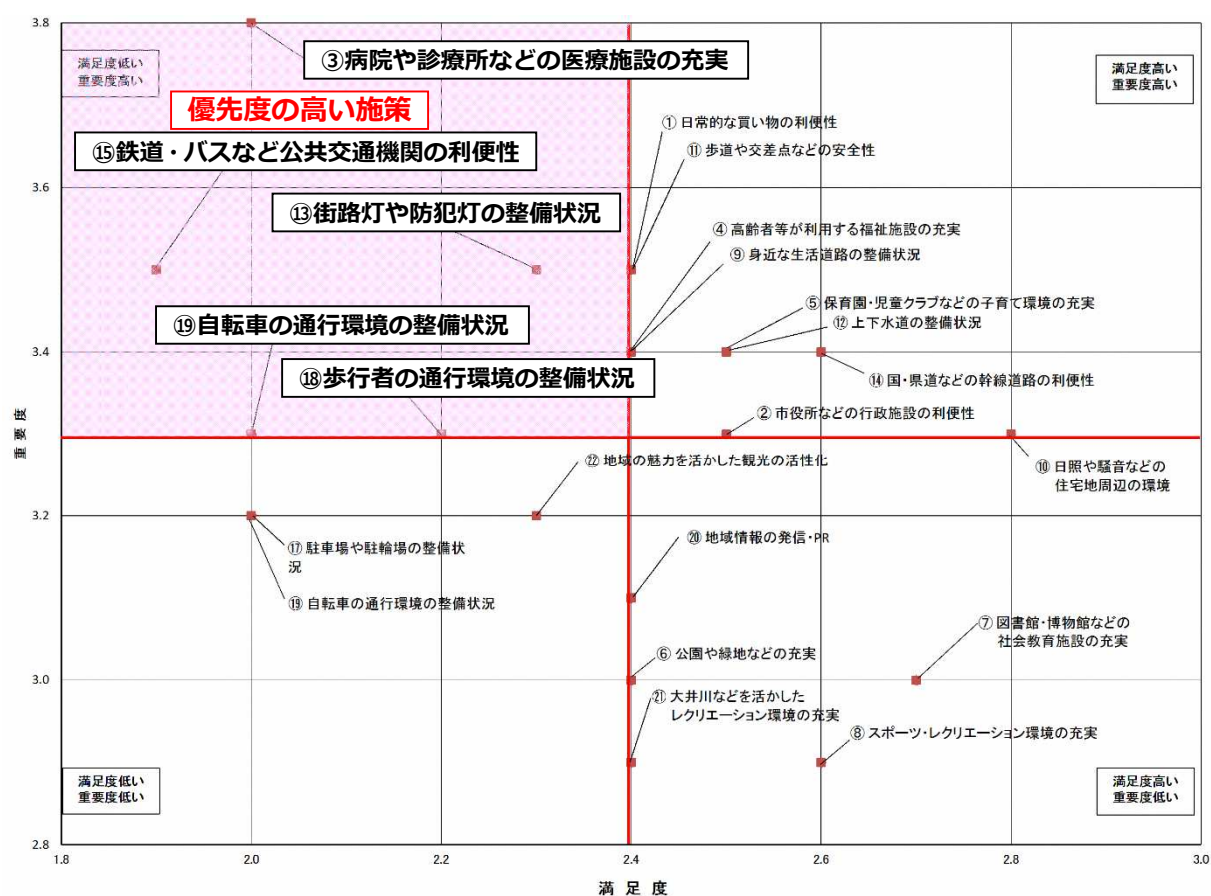
図例:

- 都市計画道路
 - 改良済
 - 概成済
 - 未改良
 - その他の主要道路
- 都市計画公園
 - 整備済
 - 計画
 - 一部整備済
 - その他公園緑地
- 公共公益施設(現況)
 - 学校
 - 主要な公共公益施設
 - 歴史・文化・観光施設
 - 幼稚園・保育園
 - 高齢者福祉施設
- 医療施設(内科・外科)
- 商業施設(店舗面積1,000㎡以上)
- 金谷地域
- 都市計画区域
- 用途地域

(3) 都市計画マスタープラン市民意向調査結果（金谷地域回答数 182）

- ・地域のまちづくりにおける満足度・優先度から読み取れる優先度の高い施策については、医療施設の充実、公共交通機関の利便性、防犯灯や歩行者の通行環境の整備などが挙げられています。
- ・地域の誇りについては、「豊かな自然」、「住環境」、「伝統行事」などに多くの意見がありました。
- ・地域の拠点に必要なと思う施設については、「医療施設」が最も多く、次いで、「商業施設」、「飲食施設」、「健康増進施設」などの意見がありました。

地域のまちづくりに対する満足度・重要度



4 金谷地域の全体構想の位置付け

【地域の拠点】

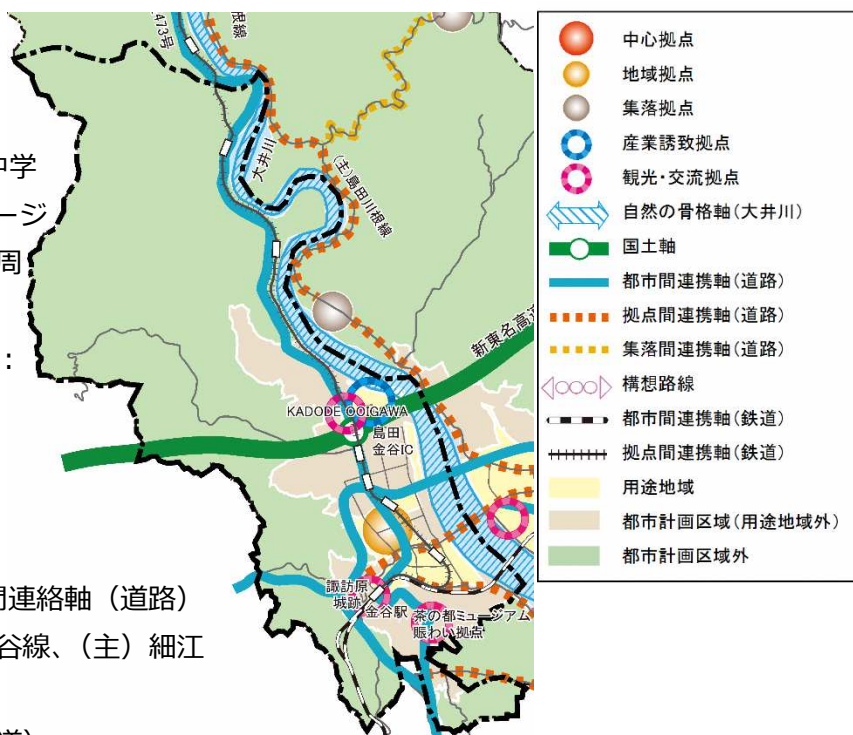
- ・金谷公民館周辺：地域拠点

【その他の拠点】

- ・KADODE OOIGAWA、旧金谷中学校跡地・ふじのくに茶の都ミュージアム周辺、金谷駅・諏訪原城跡周辺：観光・交流拠点
- ・島田金谷インターチェンジ周辺：産業誘致拠点

【軸】

- ・大井川：自然の骨格軸
- ・新東名高速道路：国土軸
- ・国道1号、国道473号：都市間連絡軸（道路）
- ・（一）島田岡部線、（一）住吉金谷線、（主）細江金谷線：拠点間連絡軸（道路）
- ・東海道本線：都市間連絡軸（鉄道）
- ・大井川鐵道大井川本線：拠点間連絡軸（鉄道）



5 金谷地域の課題

コンパクト・プラス・ネットワークの都市づくりの実現に向けた、地域の課題を次のように整理します。

- 今後の人口減少を踏まえ、金谷公民館周辺の地域拠点において、医療・福祉・商業などの都市機能の維持・充実及び周辺の人口密度の維持を図る必要があります。
- 都市間・拠点間連絡軸の充実を図り、交通渋滞の緩和や安全な歩行空間の確保を進めていく必要があります。
- 金谷公民館、金谷駅、新東名島田金谷 IC 周辺などを交通結節点とし、日常生活での移動や観光・交流の観点から、効果的・効率的な公共交通網を形成していく必要があります。
- 浸水想定区域や土砂災害の危険性があるエリアが存在し、ソフト・ハードにわたる防災・減災の取り組みを進める必要があります。
- 大井川や森林などの良好な自然環境、大茶園などの保全・活用を図る必要があります。また、優れた眺望点、諏訪原城などの歴史資源などを含め、自然・歴史・文化と調和した良好な景観の形成を推進する必要があります。

【金谷地域】

（１）拠点づくりの方針

①地域拠点の核となる金谷公民館周辺の整備

地域拠点については、金谷公民館周辺を位置付け、現在金谷地域内にある２か所の支所機能を統合し、健康・福祉・交流などの機能を有する地域の拠点を形成します。

また、地域拠点においては、都市施設の整備と併せ、医療・福祉・商業・子育て支援といった都市機能の誘導を行うとともに、各地域からのアクセスがしやすい公共交通の確保を図ります。

（２）土地利用の方針

①地域拠点や鉄道駅周辺の利便性の高い居住環境の形成

地域拠点や鉄道駅周辺については、生活利便性を活かし、子育て世代をはじめ多世代が住みやすい快適な居住環境の形成を図ります。

②多世代が住みやすい居住環境の維持・形成

往還下地区の住居系用途地域については、地区計画制度により、良好な住宅地としての環境を維持します。

新東名島田金谷インターチェンジ周辺地区の住居系用途地域については、地区計画制度により、良好な住宅地としての環境の形成を図ります。

③新東名島田金谷インターチェンジ周辺の企業誘致・工業用地整備の推進

新東名島田金谷インターチェンジ周辺については、地区計画に基づき、道路などの基盤整備を進めるとともに、広域交通の利便性や地域特性を活かし、新たな産業の創出や次世代の成長産業分野の企業誘致を推進します。

④集落地環境の保全

集落地については、自然や農地に囲まれた良好な環境を保全し、快適な居住環境の形成を図ります。

⑤空き地・空き家の利活用

今後、増加が予測される空き地・空き家については、リノベーションなどにより地域住民の交流の場などとしての活用や所有者と活用したい人のマッチングなどを通じた利活用を検討します。

⑥用途地域内農地の利活用

用途地域内の農地については、農産物の生産のほか、防災、環境保全など都市における多様な機能を有しており、計画的に保全・活用を図ります。

(3) 交通の方針

①幹線道路の整備

東名高速道路、富士山静岡空港、新東名高速道路、市の中心拠点などへのアクセス機能の強化に向け、国道1号の4車線化、国道473号バイパスの早期完成、菊川インターチェンジのフルインターチェンジ化、大代インターチェンジの完成型及び、国道1号大代インターチェンジから新東名島田金谷インターチェンジ間の4車線化について、国・県に整備を働きかけます。

また、快適な地域内交通を確保するため（都）二軒家牛尾線や島竹下線などの整備を進めます。

②生活道路の整備・修繕

快適な生活の基盤となる生活道路については、歩行者の安全性・快適性を高めるため、市民との協働を図りながら管理を行い、拡幅整備や修繕は、優先度を踏まえ計画的に推進します。

また、通学路については再点検を行い、安全確保のため、歩道、交通安全施設（ガードパイプ）、路面標示などの整備を推進します。

③歩行者ネットワークの形成

JR金谷駅から大井川鐵道新金谷駅を結ぶ歩行者動線を形成し、周辺の地域資源をつなぐ回遊性のある歩行者ネットワーク形成を図ります。

④交通結節点の整備

地域拠点である金谷公民館周辺や金谷駅などにおいて、バスなどの乗継の利便性を高める取り組みに努めます。

また、「KADODE OOIGAWA」では、大井川鐵道新駅の整備と合わせて、鉄道やバスなどの複数の交通機関を連携させるマルチモーダル[※]施策を進めます。

※マルチモーダルとは、効率的な輸送体系の確立を目指し、道路・鉄道など複数の交通機関を連携させる交通施策

⑤バスなどの公共交通の充実

公共交通については、移動ニーズに合わせたバス、タクシーなどの効果的・効率的な運行を検討します。また、地域主体の自家用有償旅客運送制度の導入を検討します。将来的には ICT などを活用した移動サービスの導入を検討します。

(4) 安全安心・コミュニティの方針

①水害対策の推進

大井川については、「大井川水系河川整備計画」に基づき必要な改修を国に働きかけます。また、大代川、新堀川、清水川、童子沢などは緊急性・重要性を踏まえ、改修を県に働きかけます。

地域の雨水対策は、都市下水路の施設整備や河川、水路、調節池などの治水対策を検討します。

浸水想定区域においては、大雨時に市民などが災害時に適切な避難行動が取れるよう、洪水ハザードマップの周知や自主防災組織による地区防災マップづくりを促進します。

②土砂災害対策の推進

土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域については、「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づき、危険の周知、警戒避難体制の整備、住宅の新規立地の抑制などの対策を推進します。

また、駅周辺の斜面地に発達した宅地については、安全性の確保に努めます。

③治山事業などによる森林環境の保全

大雨による洪水や土砂災害などの災害を防ぐ公益的な機能を有する森林環境の保全のため、治山事業や林道事業について、優先度を踏まえつつ事業を実施するとともに、工事の難易度に応じて県に働きかけます。

④避難路の安全性向上、緊急輸送路の整備

避難路については、家屋の倒壊対策や危険なブロック塀などの撤去を推進し安全性を高めます。

緊急輸送路については、「地域防災計画」において指定されている、(市) 菊川神谷城線の整備を推進します。

⑤防犯・交通安全の推進

防犯対策については、地域の要望に応じ、自治会や町内会が行う防犯灯のLED化を支援します。

交通安全対策については、交通事故発生箇所の把握や地域要望などを踏まえ、カーブミラー、ガードレールなどの交通安全施設の設置を進めます。また、信号機や横断歩道の設置を関係機関に働きかけます。

また、通学路については、犯罪の防止・抑止や交通安全のため、地域における見守隊などの活動を積極的に支援します。

⑥学校などにおける地域交流機能の充実

地域活動や生涯学習の支援については、学校などの施設を地域に開放し利用を促進するとともに、地域の防災拠点として活用します。

⑦各種コミュニティ施設の活用

地域のコミュニティ機能については、公民館などを生涯学習や市民活動・交流の拠点として、また地域子育て支援センターなどを子育て支援の拠点として活用します。

(5) 活力・魅力づくりの方針

①賑わい拠点の形成

旧金谷中学校跡地周辺については、民間活力の導入を図り、富士山静岡空港や「ふじのくに茶の都ミュージアム」と連携して賑わい拠点を形成します。

②「KADODE OOIGAWA」によるにぎわいの創出

新東名島田金谷インターチェンジ周辺において、官民連携により、本市の魅力に触れることのできる拠点「KADODE OOIGAWA」を整備し、観光交流人口の拡大と合わせて、にぎわいの創出を図ります。

③観光資源のネットワーク化

大井川流域の観光団体などと連携してサイクルツーリズムの情報発信を行い、自転車による観光ネットワーク化の促進を図ります。

④観光・交流拠点の形成

金谷駅周辺、大井川鐵道新金谷駅、新東名島田金谷インターチェンジ周辺は、観光・交流拠点と位置付け、本地域や大井川鐵道沿線の観光の玄関口として、にぎわい・交流機能の充実を図ります。

⑤豊富な歴史・文化・観光資源の継承と活用

地域資源を活用した魅力づくりについては、諏訪原城跡の復元・保存管理と見学者の利便性向上につながる整備を推進します。また、旧東海道石畳、「ふじのくに茶の都ミュージアム」などと、ネットワーク化を図るとともに、市民・事業者・関係団体と連携して来訪者が滞在して楽しめる仕掛けを進めます。

⑥大井川河川敷の整備・利活用

大井川河川敷の整備・利活用については、市民が多様なスポーツ・レクリエーションの活動の場として活用できるよう、市民の意見や利用者ニーズなどを踏まえ取り組みます。

⑦移住・定住の促進及び交流・関係人口の拡大

中山間地域では、空き家のリノベーションを支援するなどして、移住・定住の受け皿として利活用を促進するとともに、自然型体験ができる農家民宿や民泊の普及促進について検討します。

(6) 環境との調和の方針

①農地の保全・活用

本市の基幹作物であるお茶については、茶畑の優良農地を保全するとともに、集積・集約化を図ります。

農地については、国土や自然環境の保全、水源かん養、景観形成、災害時の防災空間などの多面的機能を有することから、都市的土地利用との調整を行う中で、「島田市農業振興地域整備計画」などによる適正な保全管理に努めます。

また、農業体験の場や地域住民と都市住民との交流の場として活用します。

②森林の保全・活用

防災機能、水源かん養機能、二酸化炭素の吸収源、木材生産の場などの機能や森林景観を保つため、森林の保全や管理に努めます。

森林を適正に管理する取り組みについては、間伐や下草刈り、放置竹林の伐採など森林所有者に対して必要な支援を行います。

市民参加による放置竹林の伐採・下草刈りなど、里山の維持管理活動を進めます。また、小中学生の自然体験活動や環境教育の推進などに努めます。

③地域の自然・歴史・文化と調和した景観づくり

大井川、童子沢親水公園、旧東海道石畳、大井川鐵道のS L等の地域の特性と調和した良好な景観の形成を推進します。

また、牧之原公園などは、市街地が眺望できる良好な区域として景観の保全に努めます。

④工業地緑化の推進

大井川沿いの工業地については、周辺環境に配慮し、事業者による敷地内の緑化を促進します。

⑤環境にやさしいライフスタイルへの転換

低炭素・循環型都市の形成のため、住宅については、太陽光発電や蓄電池の設置、雨水浸透ますの設置などを、移動については公共交通や自転車・徒歩で移動しやすい環境の整備を促進します。

金谷地域 将来構想図

凡例

- 都市計画区域
- 用途地域
- 住宅地
- 住工共生地
- 工業地
- 集落地
- 森林・緑地
- 農地
- 学校(現況)
- 主要な公共公益施設(現況)
- 歴史・文化・観光施設
- 東海道本線
- 大井川鐵道大井川本線

以下、構想到に係わるもの

- 地域拠点
- 産業誘致ゾーン
- 観光・交流ゾーン
- 地域振興・生活利便ゾーン
- 幹線道路沿道整備ゾーン
- 交通結節点
- 都市計画道路(※未整備区間を含む)
- その他の主要道路
- 公園緑地(※未整備・都市公園緑地以外を含む)
- 公共交通拠点間路線(多様な交通手段)
- 公共交通地域間路線(多様な交通手段)
- 歩行者・自転車ネットワーク
- 構想路線(骨格)

拡大図

1 地域の将来像

『人と自然と文化が調和するふれあいのまち』

2 地域づくりの目標

（１）各地域の特性を活かしたまち

伊久身地域には農林業を主要産業とする 12 の集落、大長地域には農業を主要産業とする 3 つの集落があり、それぞれの地域に歴史や文化、暮らし方などの特性があります。そのため、共通する豊かな自然環境の保全・活用を図りながら地域特性に応じたまちづくりを目指します。また、集落間のネットワークの形成を図ることで、まとまりのあるまちづくりを推進します。

（２）市民がふれあい、健やかに暮らせるまち

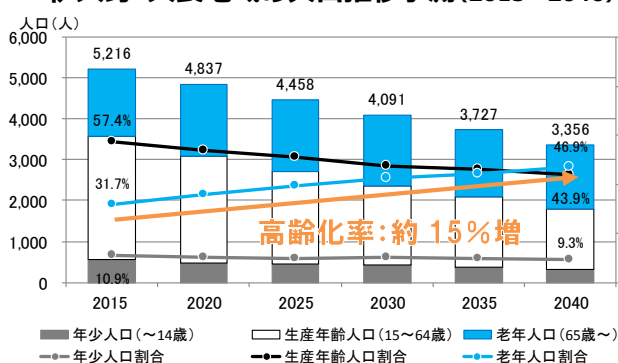
自然環境や歴史・文化資源等の地域資源を最大限に活用するとともに、それぞれの資源を通して、市民がふれあいながら、健やかに暮らせるまちづくりを目指します。

3 伊久身・大長地域の概況

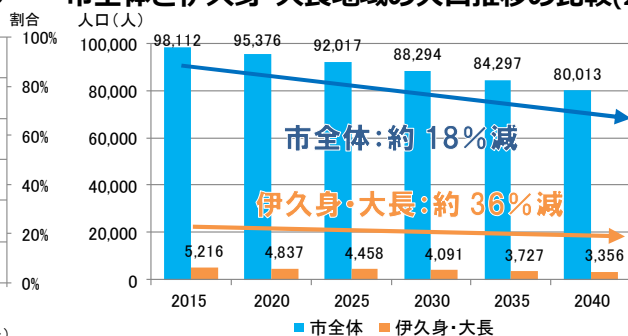
(1) 位置、人口

- ・伊久身・大長地域は、本市の北部に位置し、北側は川根地域、南側は中心地域、東側は藤枝市に接し、西側は大井川に面しています。
- ・本地域は豊かな森林を有しており、多くが都市計画区域外の区域となっています。
- ・今後の人口推移については、2015年から2040年までの25年間で約36%減少することが予測されています。一方、高齢化率については、25年間で約15%増加し、2040年には約47%になることが予測されています。

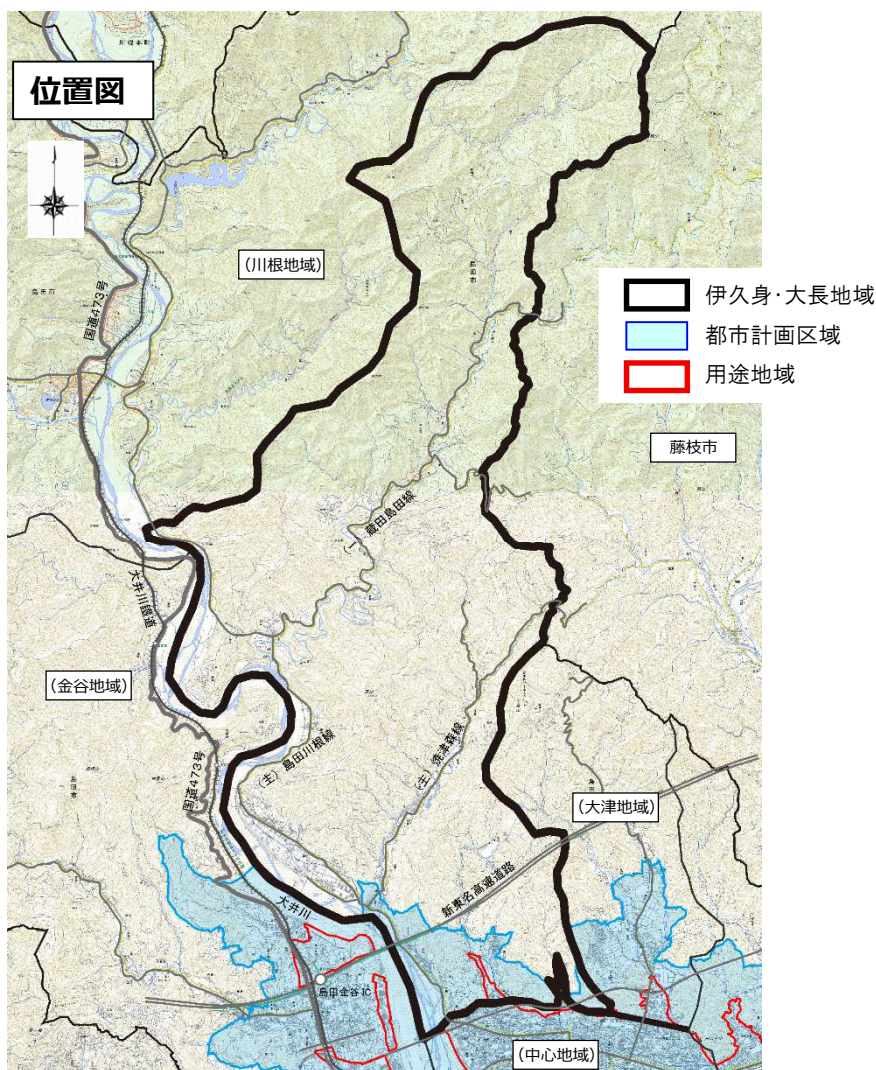
伊久身・大長地域の人口推移予測(2015→2040)



市全体と伊久身・大長地域の人口推移の比較(2015→2040)



出典: 伊久身・大長地域・島田市人口ビジョン、市全体・国立社会保障・人口問題研究所の推計

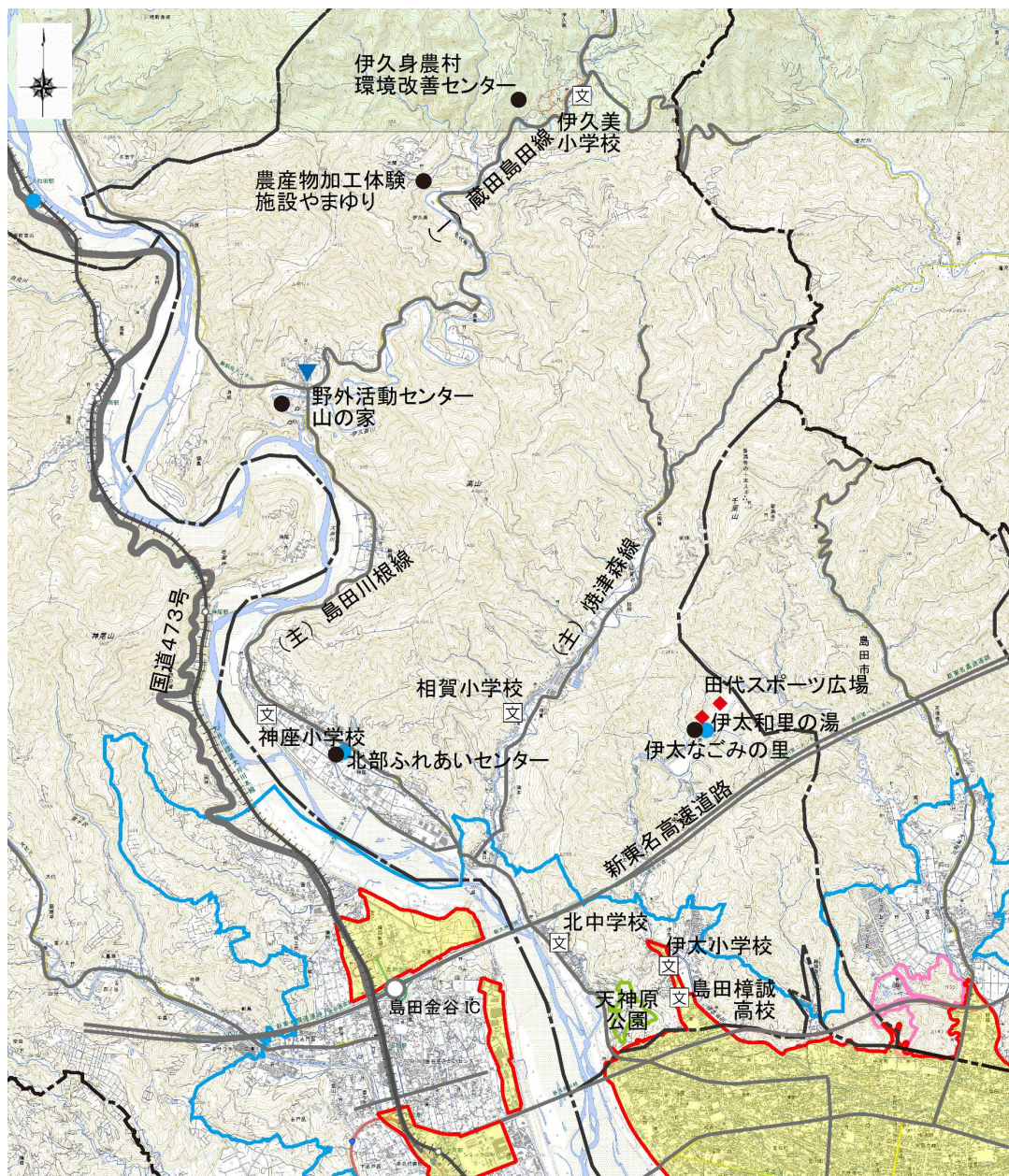


国土地理院 1/25,000 地形図を加工

(2) 都市施設、公共公益施設などの状況

- ・幹線道路として、(主)島田川根線、(主)焼津森線、(一)蔵田島田線が骨格を形成しています。
- ・幹線道路沿いの集落地に公共公益施設が分布しています。
- ・野外活動センター山の家、農産物加工体験施設やまゆり、伊太和里の湯など、観光・交流施設が立地しています。

都市施設・公共公益施設図

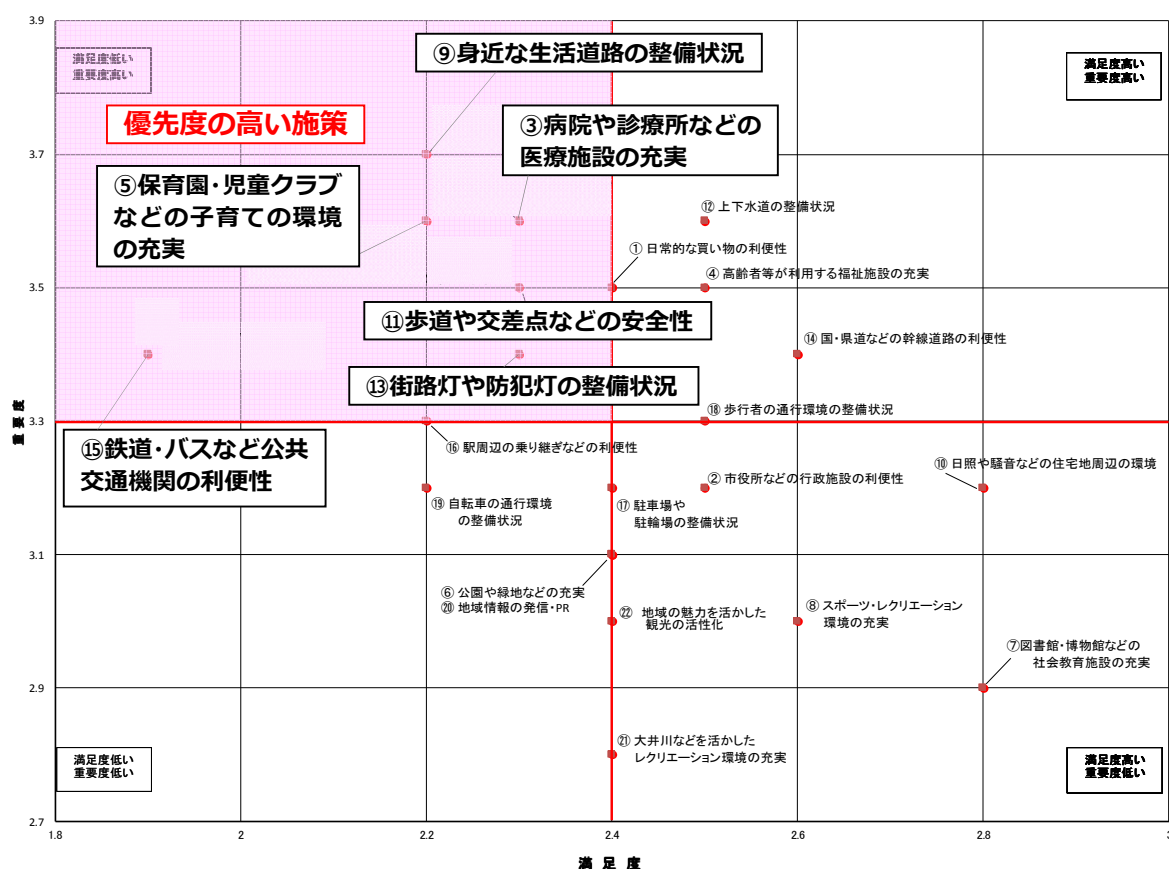


— 主要道路	▼ 幼稚園・保育園
□ 都市計画公園	● 高齢者福祉施設
□ 一部整備済	⋯ 伊久身・大長地域
文 学校	□ 都市計画区域
● 主要な公共公益施設	■ 用途地域
◆ 歴史・文化・観光施設	

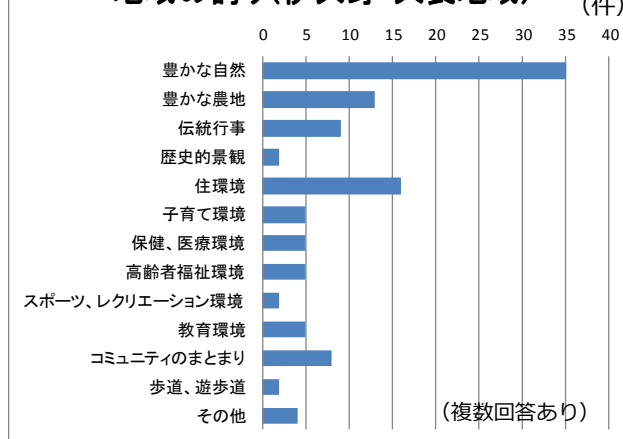
(3) 都市計画マスタープラン市民意向調査結果（伊久身・大長地域回答数 46）

- ・地域のまちづくりにおける重要度・満足度から読み取れる優先度の高い施策については、生活道路の整備、子育て環境の整備、医療施設の充実、公共交通機関の利便性、防犯灯や歩行者の通行環境の整備などが挙げられています。
- ・地域の誇り、魅力については、「豊かな自然」、「住環境」、「豊かな農地」、「伝統行事」などに多くの意見がありました。
- ・地域の拠点に必要なと思う施設については、「商業施設」が最も多く、次いで「子育て支援施設」、「医療施設」、「高齢者向け施設」などの意見がありました。

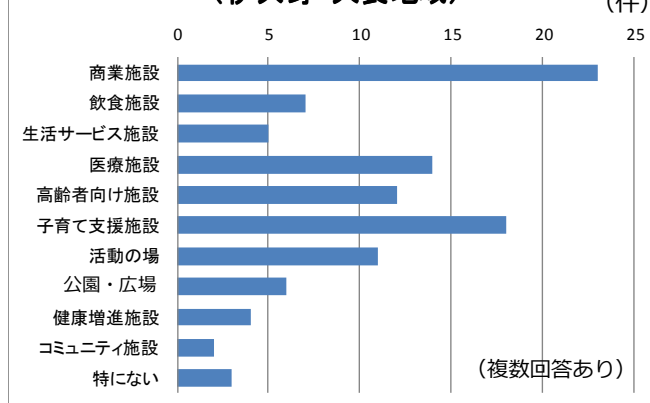
地域のまちづくりに対する満足度・重要度



地域の誇り(伊久身・大長地域)



地域の拠点に必要なと思う施設(伊久身・大長地域)



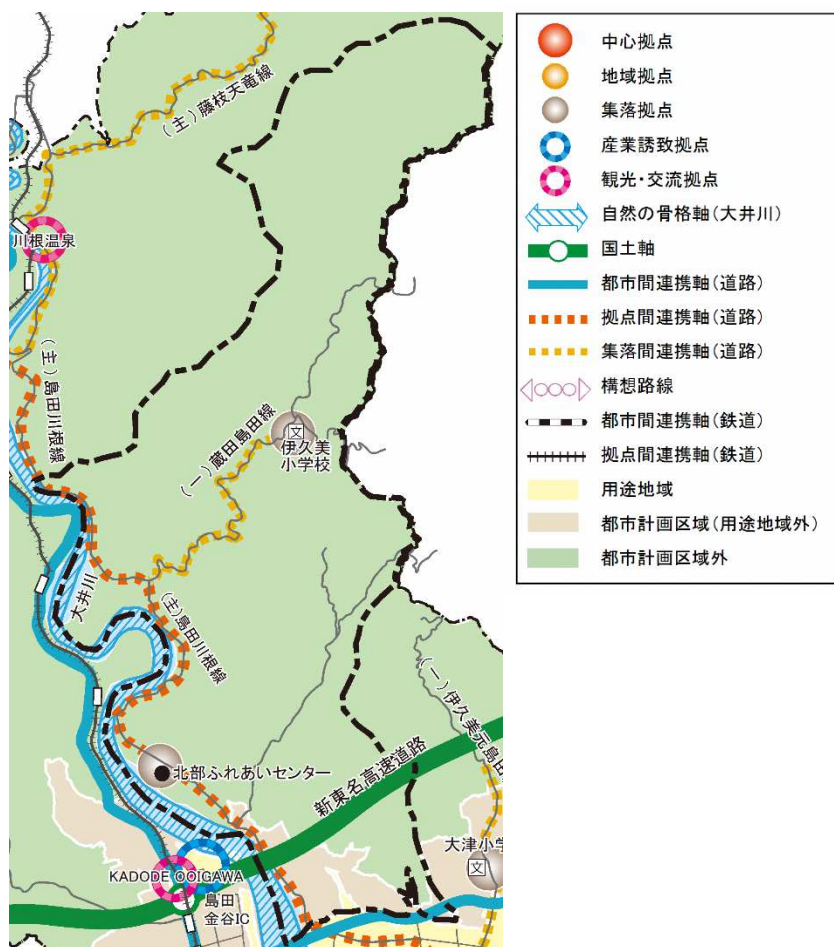
4 伊久身・大長地域の全体構想の位置付け

【拠点】

- ・伊久美小学校周辺、北部ふれあいセンター：集落拠点

【軸】

- ・大井川：自然の骨格軸
- ・(主) 島田川根線：
拠点間連絡軸（道路）
- ・(一) 蔵田島田線：
集落間連絡軸（道路）



5 伊久身・大長地域の課題

コンパクト・プラス・ネットワークの都市づくりの実現に向けた、地域の課題を次のように整理します。

- 今後の人口減少を踏まえ、集落拠点を中心に、生活サービスや地域コミュニティ機能の維持を図る必要があります。
- 道路整備・維持管理を進め、地域の交通環境の改善を図る必要があります。
- 効果的・効率的な地域公共交通網を形成する必要があります。
- 浸水想定区域や土砂災害の危険性があるエリアが存在し、ソフト・ハードにわたる防災・減災の取り組みを進める必要があります。
- 大井川や森林などの良好な自然環境、まとまった農地などの保全・活用を図る必要があります。
- また、自然・歴史・文化と調和した良好な景観の形成を推進する必要があります。

6 地域づくりの方針

【伊久身・大長地域】

(1) 拠点づくりの方針

○集落拠点における生活サービスやコミュニティの維持

伊久身地域の集落拠点については、現在の伊久美小学校周辺を位置付け、生活サービスや地域コミュニティ機能の維持を図ります。

大長地域の集落拠点については、北部ふれあいセンター周辺を位置付け、生活サービスや地域コミュニティ機能の維持を図ります。

(2) 土地利用の方針

①集落地環境の保全

集落地については、自然と調和した暮らしを望む市民ニーズを踏まえ、自然や農地に囲まれた良好な環境を保全し、快適な居住環境の形成を図ります。

②空き地・空き家の利活用

今後、増加が予測される空き地・空き家については、リノベーションなどにより地域住民の交流の場などとしての活用や所有者と活用したい人のマッチングなどを通じた利活用を検討します。

(3) 交通の方針

①地域内の道路整備

地形的制約を踏まえ、伊久身・大長地域と中心市街地及び他地域を結ぶ県道について、道路整備を県に働きかけるとともに、災害時の避難路の確保を図ります。

②生活道路の整備・修繕

快適な生活の基盤となる生活道路については、歩行者の安全性・快適性を高めるため、市民との協働を図りながら管理を行い、拡幅整備や修繕は、優先度を踏まえつつ計画的に推進します。

また、通学路については再点検を行い、安全確保のため、歩道、交通安全施設（ガードパイプ）、路面標示などの整備を推進します。

③交通結節点の整備

野外活動センター山の家や北中学校敷地において、バスなどの乗継の利便性を高める取り組みに努めます。

④バスなどの公共交通の充実

公共交通については、移動ニーズに合わせたバス、タクシーなどの効果的・効率的な運行を検討します。また、スクールバスの混乗利用を推進するとともに、地域主体の自家用有償旅客運送制度の導入を検討します。将来的にはICTなどを活用した移動サービスの導入を検討します。

(4) 安全安心・コミュニティの方針

①水害対策の推進

大井川については、「大井川水系河川整備計画」に基づき必要な改修を国に働きかけます。また、伊太谷川、相賀谷川、伊久美川については緊急性・重要性を踏まえ、改修を県に働きかけます。

浸水想定区域においては、大雨時に市民などが災害時に適切な避難行動が取れるよう、洪水ハザードマップの周知や自主防災組織による地区防災マップづくりを促進します。

②土砂災害対策の推進

土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域については、「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づき、危険の周知、警戒避難体制の整備、住宅の新規立地の抑制などの対策を推進します。

③治山事業などによる森林環境の保全

大雨による洪水や土砂災害などの災害を防ぐ公益的な機能を有する森林環境の保全のため、治山事業や林道事業について、優先度を踏まえつつ事業を実施するとともに、工事の難易度に応じて県に働きかけます。

④学校などにおける地域交流機能の充実

将来学校の統合により生じる跡地の建物や土地については、地域ニーズや立地特性を踏まえ、効果的な活用を検討します。

北部ふれあいセンターについては、生涯学習や市民活動・交流の拠点として維持・充実を図ります。

(5) 活力・魅力づくりの方針

①自然体験の場の充実

地域資源を活用した魅力づくりについては、農産物加工体験施設やまゆり、やまめ平などを活用し、農林業体験やグリーンツーリズム等の交流事業を促進します。

②野外活動センター山の家を活用

野外活動センター山の家については、豊かな自然や地域の魅力を体験できる場として、関係機関への働きかけによる施設の充実、一層の活用、市民を中心とした適正な維持管理に努めます。

③大井川河川敷の活用

大井川河川敷の活用をはじめ、各種スポーツ施設を充実するとともに、各種団体や組織などの横の連携を図りながら、地域間の「ひと・もの・情報」の交流を活発にする取り組みについて支援に努めます。

大井川河川敷内の各地域のスポーツ広場の整備に努め、大井川マラソンコースの延伸整備が図られるよう、関係機関に働きかけます。また、大井川マラソンコースの整備に合わせ、沿道の多目的広場や遊歩道などの整備を検討します。

④自然・歴史資源のネットワークの形成

地域内に存在する歴史的資源や自然資源などをつなぐ散策道については、田代の郷温泉伊太和里の湯を活用した観光ルートの情報発信に努めます。また、千葉山へ向かう歩行者ネットワークについては、展望・休憩ゾーンなどハイキングコースとして適切な管理に努めます。

⑤田代の郷多目的スポーツ・レクリエーション広場の整備・活用

田代の郷多目的スポーツ・レクリエーション広場については、幅広い年齢層の方の健康づくりの場として活用します。また、スポーツエリアについては、市民ニーズを把握しつつ、スポーツ施設の整備を検討します。

(6) 環境との調和の方針

①農業環境の保全

本市の基幹作物であるお茶については、茶畑の優良農地を保全するとともに、集積・集約化を図ります。

農地については、国土や自然環境の保全、水源かん養、景観形成、災害時の防災空間などの多面的機能を有することから、都市的土地利用との調整を行う中で、「島田市農業振興地域整備計画」などによる適正な保全管理に努めます。

また、農業体験の場や地域住民と都市住民との交流の場として活用します。

②森林の保全・活用

防災機能、水源かん養機能、二酸化炭素の吸収源、木材生産の場などの機能や森林景観を保つため、森林の保全や管理に努めます。

森林を適正に管理する取り組みについては、間伐や下草刈り、放置竹林の伐採など森林所有者に対して必要な支援を行います。

市民参加による放置竹林の伐採・下草刈りなど、里山の維持管理活動を進めます。また、小中学生の自然体験活動や環境教育の推進などに努めます。

伊久身地域 将来構想図



大長地域 将来構想図



 	都市計画区域	以下、構想に係わるもの
 	用途地域	 集落拠点
 	住宅地	 観光・交流ゾーン
 	住工共生地	 交通結節点
 	集落地	 都市計画道路(※未整備区間を含む)
 	森林・緑地	 その他の主要道路
 	農地	 公園緑地(※未整備・都市公園緑地以外を含む)
文	学校(現況)	 公共交通拠点間路線(多様な交通手段)
	主要な公共施設(現況)	 公共交通地域間路線(多様な交通手段)
◆	歴史・文化・観光施設	 歩行者・自転車ネットワーク

川根地域

1 地域の将来像

『お茶と桜が織りなす四季の自然を体感できるまち』

2 地域づくりの目標

（１）豊かな自然と共生しながら、ゆったりと暮らせるまち

森林や大井川などの豊かな自然と共生しながら、ゆったりと暮らせるまちづくりを目指します。

（２）茶畑や桜などの四季の自然を体感できるまち

地域の特徴である茶畑や桜の保全・活用を図るとともに、豊かな自然環境を活かしたアクティビティ等を充実させることにより、四季の自然を体感できるまちづくりを目指します。

（３）温泉や野守の池などの観光資源を活かしたにぎわいのあるまち

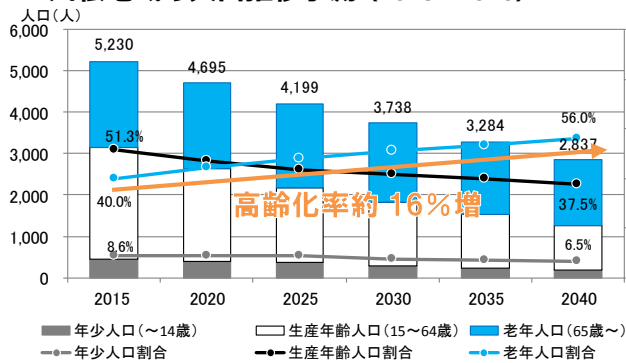
川根温泉や野守の池、大井川鐵道のＳＬなどの観光資源の活用を図りながら、各拠点のネットワークの強化を図ることで、にぎわいのあるまちづくりを目指します。

3 川根地域の概況

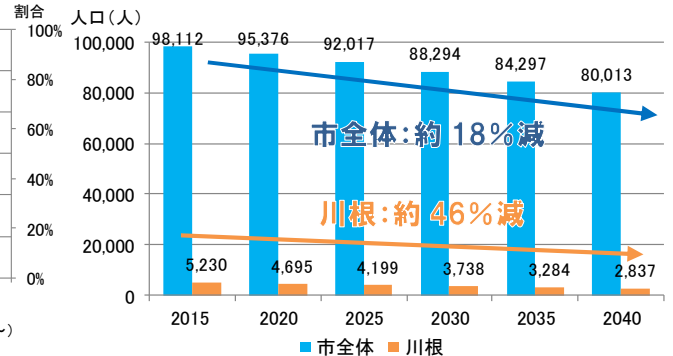
(1) 位置、人口

- ・川根地域は、本市の最北部に位置し、北側は川根本町、東側は藤枝市・静岡市、西側は浜松市、森町に接し、地域を中心に大井川が縦断しています。
- ・本地域全域が都市計画区域外にあり、豊かな森林を有しています。
- ・今後の人口推移については、2015年から2040年までの25年間で約46%減少することが予測されています。一方、高齢化率については、25年間で約16%増加し、2040年には約56%になることが予測されています。

川根地域の人口推移予測 (2015→2040)



市全体と川根地域の人口推移の比較 (2015→2040)



出典: 川根地域・島田市人口ビジョン、市全体・国立社会保障・人口問題研究所の推計

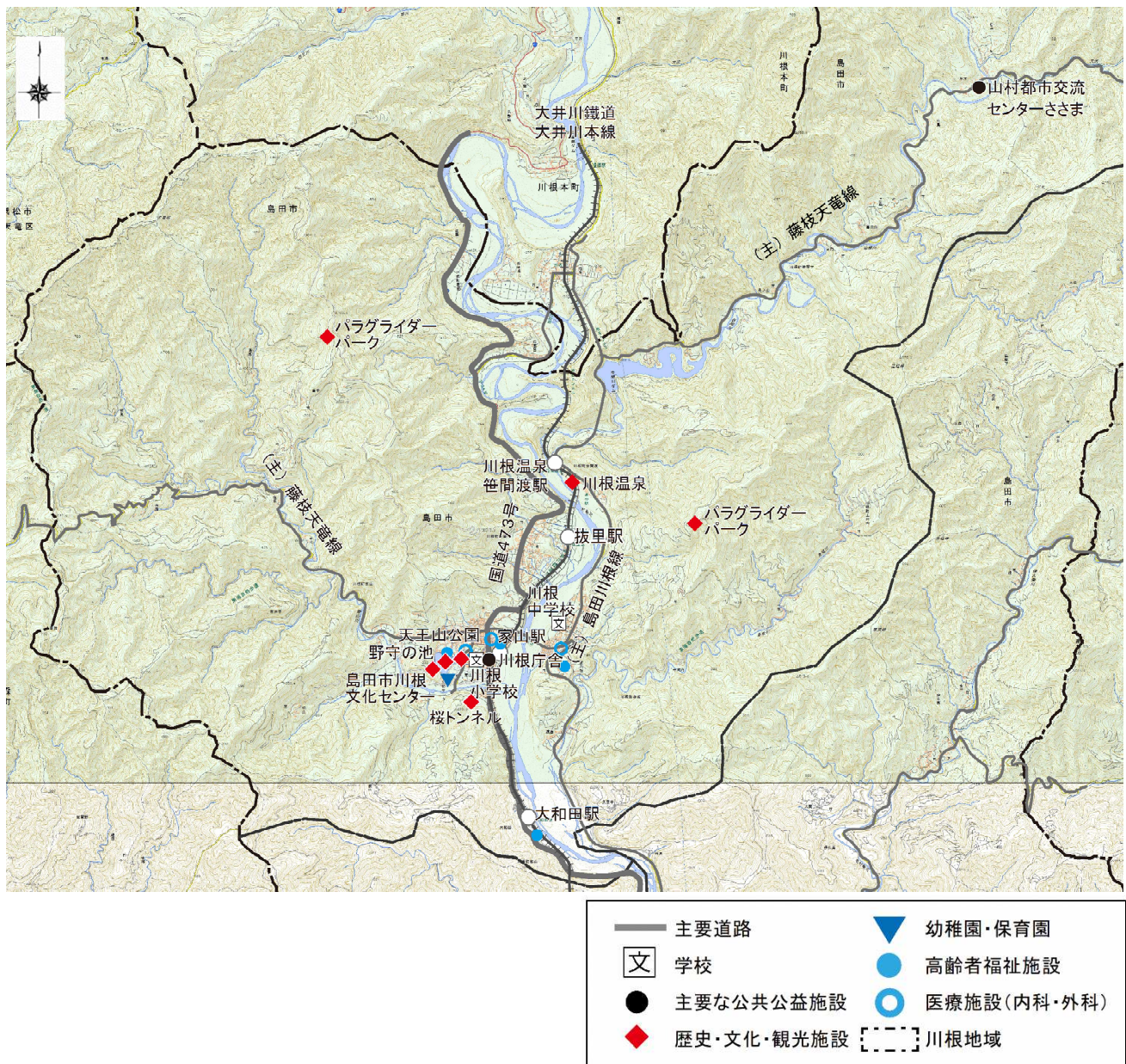


国土地理院 1/25,000 地形図を加工

(2) 都市施設、公共公益施設などの状況

- ・幹線道路として、国道473号、(主)島田川根線、(主)藤枝天竜線が骨格を形成しています。
- ・大井川鐵道大井川本線が地域の南北を縦断しています。
- ・家山駅周辺に小中学校、川根庁舎などの公共公益施設が分布しています。
- ・川根温泉や山村都市交流センターささまなど観光・交流施設が分布しています。

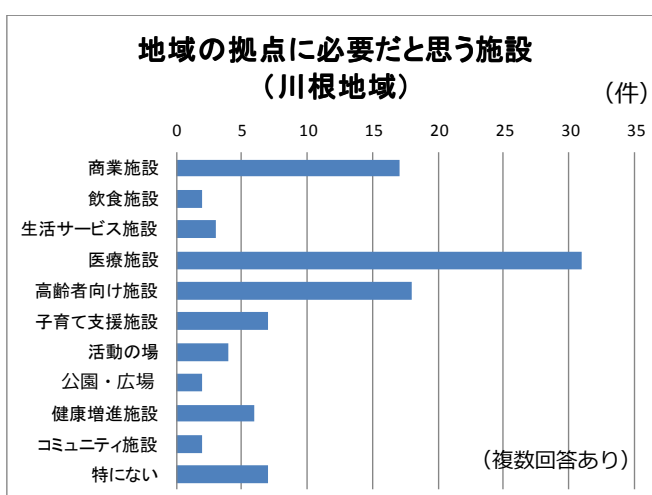
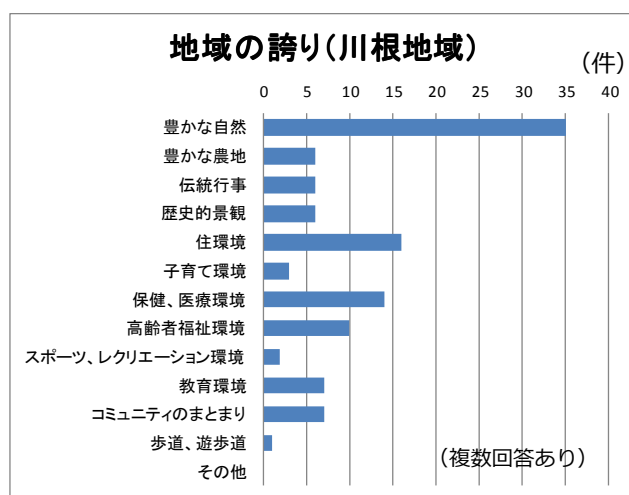
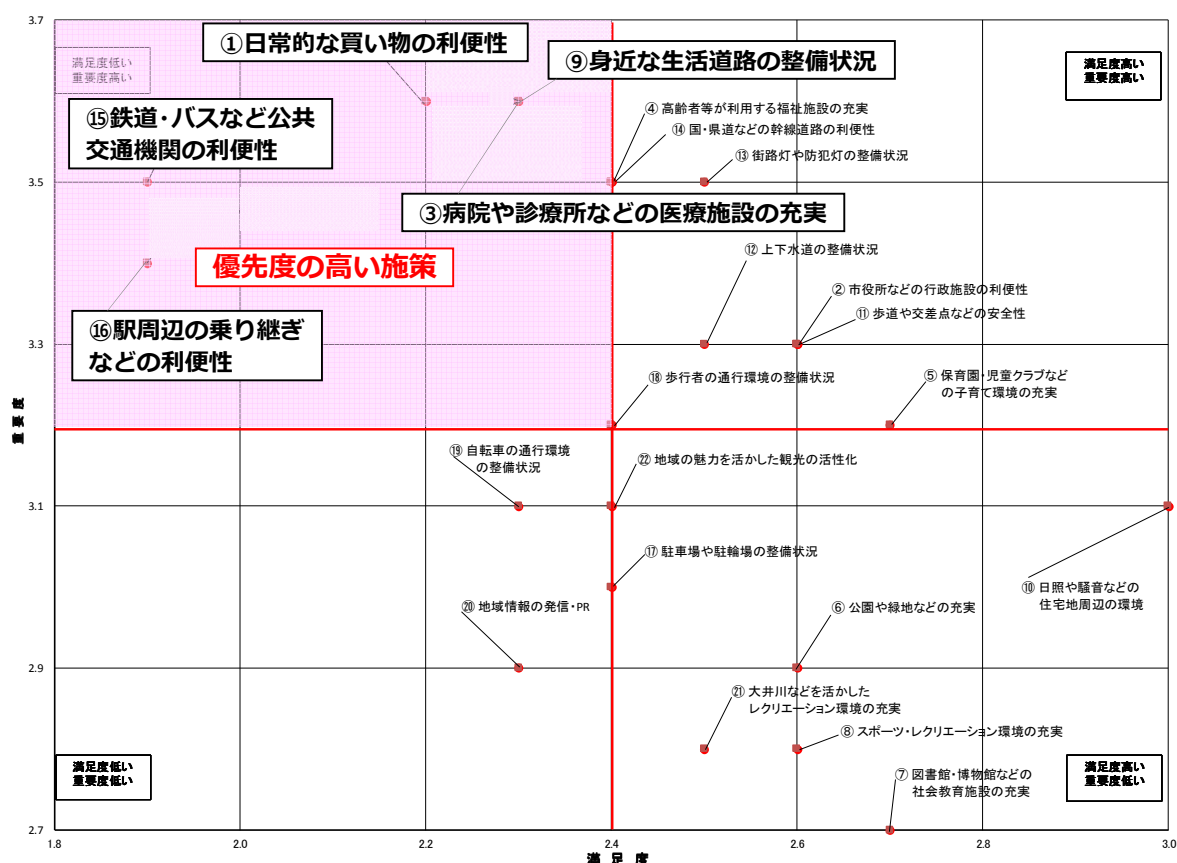
都市施設・公共公益施設図



(3) 都市計画マスタープラン市民意向調査結果（川根地域回答数 44）

- ・地域のまちづくりにおける重要度・満足度から読み取れる優先度の高い施策については、日常の買い物の利便性、医療施設の充実、生活道路の整備、公共交通機関の利便性、駅周辺の乗り継ぎの利便性などが挙げられています。
- ・地域の誇り、魅力については、「豊かな自然」、「住環境」、「保健、医療環境」などに多くの意見がありました。
- ・地域の拠点に必要なと思う施設については、「医療施設」が最も多く、次いで「高齢者向け施設」、「商業施設」などの意見がありました。

地域のまちづくりに対する満足度・重要度



4 川根地域の全体構想の位置付け

【地域の拠点】

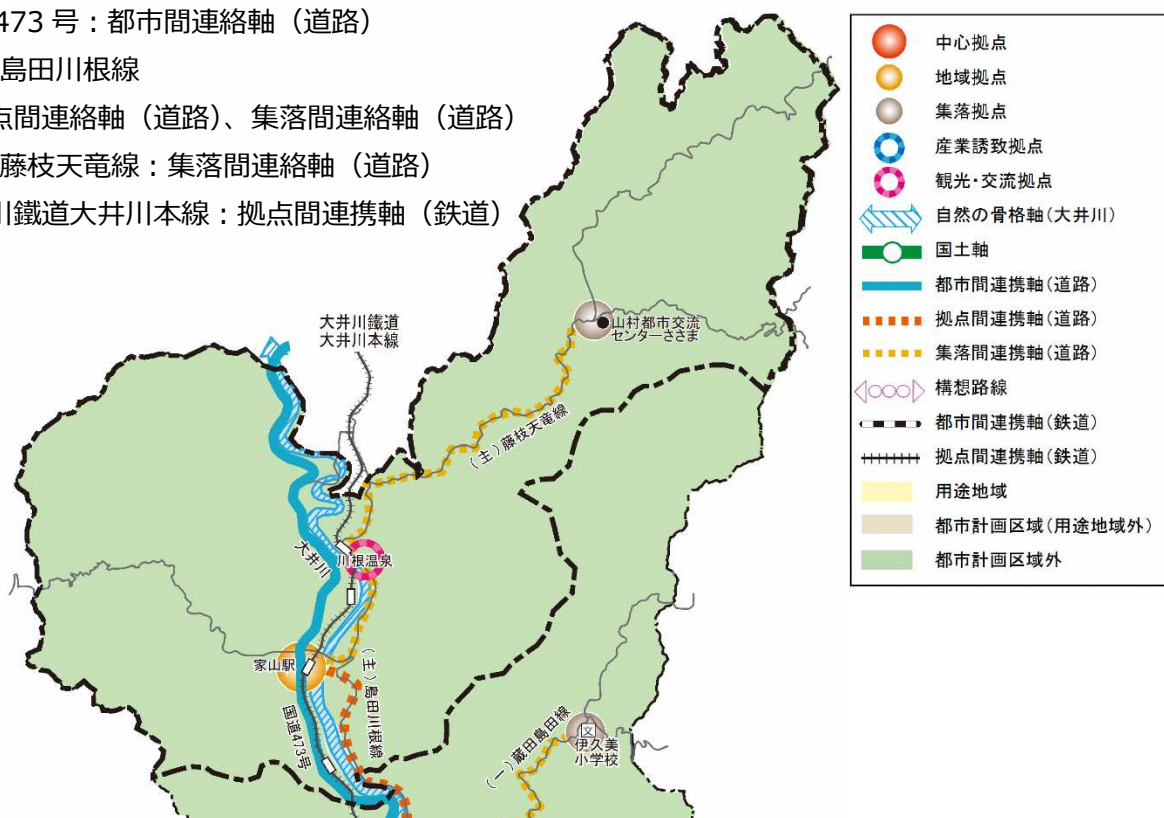
- ・家山駅周辺：地域拠点
- ・山村都市交流センターささま周辺：集落拠点

【その他の拠点】

- ・川根温泉周辺：観光・交流拠点

【軸】

- ・大井川：自然の骨格軸
- ・国道473号：都市間連絡軸（道路）
- ・（主）島田川根線
：拠点間連絡軸（道路）、集落間連絡軸（道路）
- ・（主）藤枝天竜線：集落間連絡軸（道路）
- ・大井川鐵道大井川本線：拠点間連絡軸（鉄道）



5 川根地域の課題

コンパクト・プラス・ネットワークの都市づくりの実現に向けた、地域の課題を次のように整理します。

- 今後の人口減少を踏まえ、地域拠点や集落拠点を中心に、生活サービスや地域コミュニティ機能の維持を図る必要があります。
 - 道路整備・維持管理を進め、地域の交通環境の改善を図る必要があります。
 - 効果的・効率的な地域公共交通網を形成する必要があります。
 - 浸水想定区域や土砂災害の危険性があるエリアが存在し、ソフト・ハードにわたる防災・減災の取り組みを進める必要があります。
 - 大井川や森林などの良好な自然環境、まとまった農地などの保全・活用を図る必要があります。
- また、これらの自然環境のほか、野守の池や桜トンネル周辺の良好なまちなみ、社寺などの歴史資源などを含め、自然・歴史・文化と調和した良好な景観形成を推進する必要があります。

6 地域づくりの方針

【川根地域】

(1) 拠点づくりの方針

○地域拠点における生活サービスやコミュニティの維持

地域拠点については、公共施設が集積する家山駅周辺を位置付け、生活サービスや地域コミュニティ機能の維持を図ります。

笹間地区における集落拠点については、山村都市交流センターささま周辺を位置付け、生活サービスや地域コミュニティ機能の維持を図ります。

(2) 土地利用の方針

①地域拠点周辺における快適な居住環境の形成

地域拠点周辺については、自然や農地に囲まれた良好な環境を保全し、快適な居住環境の形成を図ります。

②集落地環境の保全

集落地については、自然と調和した暮らしを望む市民ニーズを踏まえ、自然や農地に囲まれた良好な環境を保全し、快適な居住環境の形成を図ります。

③空き地・空き家の利活用

今後増加が予測される空き地・空き家については、リノベーションによる地域住民の交流の場などとしての活用や空き家バンクなどによる所有者と活用したい人のマッチングなどを通じた利活用を検討します。

(3) 交通の方針

①地区内幹線道路の整備

地域拠点と集落拠点を結ぶ県道や川根地域と中心地域・金谷地域とを結ぶ国道・県道について、道路整備を県に働きかけるとともに、災害時の避難路の確保を図ります。

②生活道路の整備・修繕

快適な生活の基盤となる生活道路については、歩行者の安全性・快適性を高めるため、市民との協働を図りながら管理を行い、拡幅整備や修繕は、優先度を踏まえつつ計画的に推進します。

また、通学路については再点検を行い、安全確保のため、歩道、交通安全施設（ガードパイプ）、路面標示などの整備を推進します。

③交通結節点の整備

家山駅などにおいて、鉄道とバスなどの乗継の利便性を高める取り組みに努めます。

④バスなどの公共交通の充実

公共交通については、移動ニーズに合わせたバス、タクシーなどの効果的・効率的な運行を検討します。また、スクールバスの混乗利用を推進するとともに、地域主体の自家用有償旅客運送制度の導入を検討します。将来的には ICT などを活用した移動サービスの導入を検討します。

(4) 安全安心・コミュニティの方針

①水害対策の推進

大井川、家山川、笹間川などについては、緊急性・重要性を踏まえ、改修を県に働きかけます。

浸水想定区域においては、大雨時に市民などが災害時に適切な避難行動が取れるよう、洪水ハザードマップの周知や自主防災組織による地区防災マップづくりを促進します。

②土砂災害対策の推進

土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域については、「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づき、危険の周知、警戒避難体制の整備、住宅の新規立地の抑制などの対策を推進します。

③治山事業などによる森林環境の保全

大雨による洪水や土砂災害などの災害を防ぐ公益的な機能を有する森林環境の保全のため、治山事業や林道事業について、優先度を踏まえつつ事業を実施するとともに、工事の難易度に応じて県に働きかけます。

④学校などにおける地域交流機能の充実

地域活動や生涯学習の支援については、学校などの施設を地域に開放し利用を促進するとともに、地域の防災拠点として活用します。

⑤各種コミュニティ施設の活用

地域のコミュニティ機能については、地区センターなどを生涯学習や市民活動・交流の拠点として、また地域子育て支援センターなどを子育て支援の拠点として活用します。

(5) 活力・魅力づくりの方針

①家山地区の魅力向上

大井川、家山川、野守の池などについては、良好な水辺の環境づくりや景観整備を進めるとともに、桜トンネル、家山緑地公園、天王山公園などの、桜の名所としてふさわしい維持管理に努めます。また、家山駅から天王山、野守の池をつなぐ回遊性のある、歩いて楽しい散策ネットワークの形成を図ります。

②川根温泉周辺の魅力向上

川根温泉周辺を観光・交流拠点と位置付け、家山地区と連携しつつ、地域に分布する自然・歴史資源の保全・整備を進めるとともに、新たな地域資源の開発やネットワーク化を図り、観光客の回遊性を高めます。

③山村都市交流センターささまなどにおける地域の魅力向上に向けた取り組みの促進

山村都市交流センターささまについては、地域資源の活用を通じて、交流人口・関係人口の拡大に向けた、農林業体験やグリーンツーリズムなどの交流事業を促進します。

また、市民主体による地域の魅力向上に向けた取り組みについて支援します。

④アウトドアレジャーの充実

川根地域においては、キャンプ、カヤック、パラグライダー、乗馬など、自然を活かしたアウトドアレジャーの受入れ態勢の強化のため、大井川流域の市町と連携を図ります。

⑤大井川の活用

大井川については、自然を損なうことがないよう、良好な維持管理を図るとともに、河川敷内の施設の維持管理に努めます。

⑥観光資源のネットワーク化

大井川の清流や里山、大井川鐵道のS Lや温泉等の地域の魅力的な資源の活用により、観光客の回遊性、滞在性を高めるよう考慮します。

大井川流域の観光団体などと連携してサイクルツーリズムの情報発信を行い、自転車による観光ネットワーク化の促進を図ります。

⑦移住・定住の促進及び交流・関係人口の拡大

空き家のリノベーションを支援するなどして、移住・定住の受け皿として利活用を促進するとともに、自然型体験ができる農家民宿や民泊の普及促進について検討します。

(6) 環境との調和の方針

①農業環境の保全

本市の基幹作物であるお茶については、茶畑の優良農地を保全するとともに、集積・集約化を図ります。

農地については、国土や自然環境の保全、水源かん養、景観形成、災害時の防災空間などの多面的機能を有することから、都市的土地利用との調整を行う中で、「島田市農業振興地域整備計画」などによる適正な保全管理に努めます。

また、農業体験の場や地域住民と都市住民との交流の場として活用します。

②森林の保全・活用

防災機能、水源かん養機能、二酸化炭素の吸収源、木材生産の場などの機能や森林景観を保つため、森林の保全や管理に努めます。

森林を適正に管理する取り組みについては、間伐や下草刈り、放置竹林の伐採など森林所有者に対して必要な支援を行います。

市民参加による放置竹林の伐採・下草刈りなど、里山の維持管理活動を進めます。また、小中学生の自然体験活動や環境教育の推進などに努めます。

③良好な地域景観の保全

桜や茶畑などの農山村風景といった川根地域ならではの景観については、地域の重要な資源として位置付け、魅力を高める取り組みを進めながら保全に努めます。

また、鵜山の七曲りなど大井川の特徴的な自然景観を眺望できる展望施設の充実や来訪者に分かりやすいよう案内板などの設置を進めます。

川根地域 将来構想図



拡大図

